

## 第2次

# 多賀城市子ども読書活動推進計画

～心を育てる読書プラン～



平成 23 年 7 月

多賀城市

# 目 次

I	計画策定に当たって	
1	計画策定の背景	1
2	子ども読書活動に関する経過	2
3	読書文化の重要性と子どもの読書活動の意義	2
4	子どもの読書活動の現状	5
II	1次計画の検証	
1	1次計画の取り組み	9
2	1次計画の成果	11
3	1次計画の課題	12
III	2次計画の内容	
1	計画の名称及び計画期間	12
2	2次計画の対象者と取り組み主体	13
3	計画の体系	13
4	目標体系と成果指標	14
5	具体的取り組み	15
	おわりに	17

# I 計画策定に当たって

## 1 計画策定の背景

平成 13 年 12 月の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行、さらには国による「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の策定などを受け、本市では平成 18 年 2 月に「多賀城市子ども読書活動推進計画」（以下「1 次計画」といいます。）を策定し、読書を推進し心豊かでたくましい子どもたちの育成に取り組んで参りました。

この間、子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域の教育力の低下、体験の減少などが叫ばれる中、平成 19 年度文部科学白書では子どもたちの心の成長にかかわる現状について、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下など子どもの心の活力が弱っている傾向を指摘しています。政府は平成 18 年に約 60 年ぶりに教育基本法を改正し、併せて平成 19 年には教育関連 3 法を改正しました。平成 18 年には社会総がかりによる教育再生を目指し、内閣に「教育再生会議」を設置しました。

このように子どもたちの生きる力を育むため、様々な分野で様々な取り組みが進められていますが、とりわけ子どもたちの読書活動を推進することは子どもたちの成長にとって極めて重要になっています。

このような認識のもと、1 次計画の期間が平成 22 年度末で終了することを受け、さらなる子ども読書活動の推進と読書を通じた心豊かな子どもたちの育成に取り組むため、平成 23 年度を初年度とした「第 2 次多賀城市子ども読書活動推進計画」（以下「2 次計画」といいます。）を策定することとしました。

## 2 子ども読書活動に関する経過

子どもの読書活動を推進するための国、県及び市の主な取り組みは下記のとおりです。

年 月	記 事
平成 11 年 8 月	平成 12 年を「子ども読書年」とする旨の衆参両院決議
平成 12 年 5 月	「国際子ども図書館」開館
平成 13 年 12 月	「子どもの読書活動の推進に関する法律」施行
平成 14 年 8 月	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定
平成 16 年 3 月	県が「みやぎ子ども読書活動推進計画」策定
平成 17 年 7 月	「文字・活字文化振興法」制定
平成 18 年 2 月	「多賀城市子ども読書活動推進計画」策定
平成 20 年 3 月	「第 2 次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定
平成 20 年 6 月	平成 22 年度を「国民読書年」とする衆参両院決議
平成 20 年 6 月	「図書館法」改正
平成 21 年 4 月	県が「第 2 次みやぎ子ども読書活動推進計画」策定

## 3 読書文化の重要性と子どもの読書活動の意義

読書や図書館の重要性を発信している 4 人の識者の見解を紹介しましょう。

・日本が成熟した民主主義国家として発展するためにも読書文化は必要不可欠。(平成 22 年 10 月 23 日東京上野で開催された国民読書年記念式典における福原義春文字・活字文化推進機構会長の発言)

・人間として大切なのは他者の気持ちを理解すること、それには想像力が不可欠。他者に共感する力を育てるために最も有効なのが読書。(平成 21 年 5 月 22 日、朝日新聞国民読書年広告記事に寄せたジャーナリスト池上彰氏の一文からの抜粋)

・行き詰まった現代社会の課題を解決する知恵は、過去の文化や伝統を学び直すことでしか見つからない。その意味で過去から延々と知を集積している図書館は重要。(平成 21 年 10 月 18 日朝日新聞全国図書館大会広告に寄せた藤原正彦氏の一文からの抜粋)

・読書は思考活動における素地をつくるものだ。本格的な思考力は、すべての活動の基礎だ。経済活動にせよ、詰まるところ思考力である。日本経済の危機が叫ばれているが、読書力の復活こそが、日本経済の地力をあげるための最良の方法

だと私は考えている。(齋藤孝著「読書力」岩波新書より)

このように、人間が生きていく上で読書は重要です。このため読書文化を振興発展させることが私たちの使命です。さらには、子どものうちに読書習慣を身につけることが肝要ですが、改めて子ども読書の意義を次のとおり整理します。

・子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものである。(子どもの読書活動の推進に関する法律第2条及び子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画からの抜粋)

・読書を通じて、子どもたちは読解力や想像力、思考力、表現力等の生きる基礎力を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができる。また、書籍や新聞、図鑑などの資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる知的探求心や真理を求める態度が培われる。また、読書は、子どもたちが自ら考え、自ら行動し、主体的に社会の形成に参画していくために必要な知識や教養を身につける重要な契機となる。特に、社会が急激に変化し、複雑化していく中で、個々人が読書活動などを通じて、生涯にわたって絶えず自発的に学ぼうとする習慣を身につけていくことは大変重要である。

(第2次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画からの抜粋)

・子どもにとって読書は、ストーリーの展開にわくわく・ときどきし、本の世界に遊ぶ楽しさを知るとともに、自らが筋道をたてて考え、正しく判断し、社会に参加していくために、必要な知識や教養を身につける大切な活動です。また、自分の体験できない世界や事柄に触れ、空想の世界で遊ぶこともできます。(第2次みやぎ子ども読書活動推進計画からの抜粋)

・子どもの読書は、言葉を学び、感性を磨き、論理的思考や表現力、想像力を高め、他人への思いやりと豊かな心を育むとともに、様々な知識を深め、情報を得るなど、生きる力を養う上で大切な活動であるといえます。(多賀城市子ども読書活動推進計画からの抜粋)

・かつては子どもたちの廻りにいる沢山の大人が生活上の技術や知識-生活文化-を伝えてきましたが、社会の著しい進歩、社会の複雑化、地域共同体の崩壊、大人と接する機会の減少、そもそも大人に伝えるべき生活文化がなく、子どもたちの成長に必要な地域の教育力が著しく低下しており、生活文化を知り、伝えるために読書が必要です。読むことは間接体験に過ぎませんが、実体験ではつかみにくい全体像を見渡すことができるし様々な世代、様々な立場の登場人物の内側に入って、物事がどう見えているかを知ることができます。ほんとうにすばらしい本は、読む人を自分だけの世界にとじこもらせるのではなく、書き手と読み手とを人間的な共感でつなぎ、何か大切なものを受け取ったことによって開かれた新

しい目で、まわりの世界を見直すように促します。かつて生活文化を支えていた人間同士の直接的なつながりが崩壊しつつあるいま、本を媒介として生まれるそうしたつながりは、地球全体にまたがる大きな社会を支える力を育てる上で、ひじょうに重要な意味を持つのではないのでしょうか。(脇明子著「読む力は生きる力」(岩波書店出版)より)

何故、わざわざ法律をつくり、計画をつくり、国を挙げて子どもの読書活動を推進しなければならないのか、その意味はどこにあるのか、このような理論に対抗するため敢えて以上のような理論を掲げました。社会が人によってつくられ、人によって磨かれるものであるならば、子どもたちの読書活動を推進することは社会を支え、国を支えることに他なりません。

そもそも、我が国は世界に冠たる文学を作り上げてきました。万葉集、古今集、源氏物語、徒然草、奥の細道等々有史以来蓄積されてきた優れた文学作品は枚挙に暇がありません。明治以降は海外の文学や哲学、学問も幅広く取り入れました。識字率、図書の発刊数、本の売上高、出版社数、図書館の整備率等々我が国が読書立国であったことは明らかです。

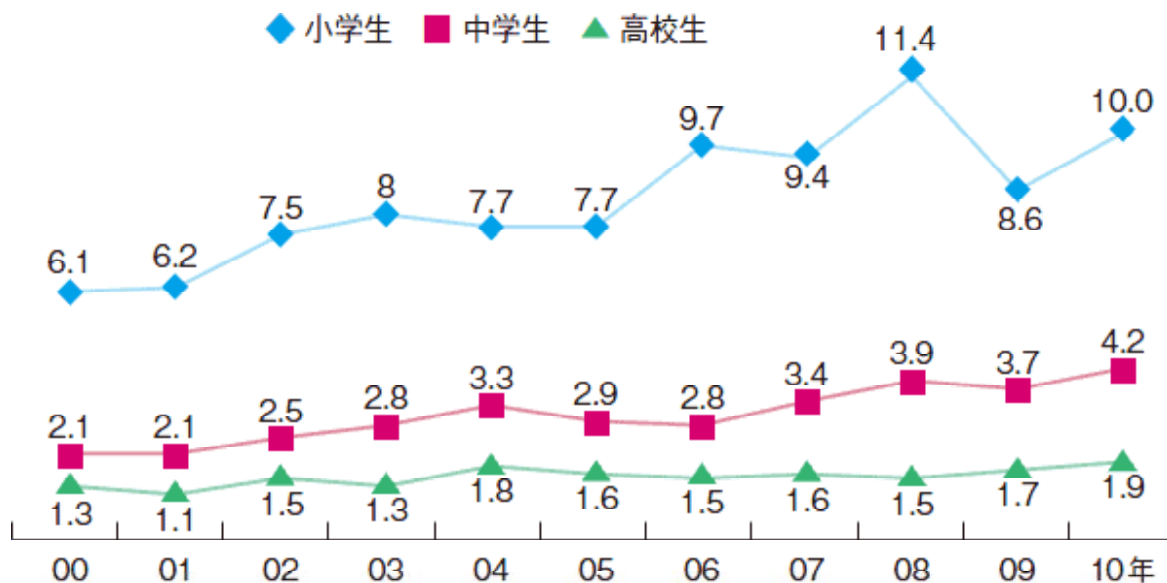
しかし、昨今の読書離れは極めて深刻です。前出の明治大学齋藤孝教授は大学に入学したての学生たち数百人に、毎年読書量を聞いていますが、全くと言っていいほど読まない者が3割ほどおり、きちんとした本に限定すれば、半分以上が読書の習慣を持っていないといえます。ノートルダム清心女子大脇明子教授も「本が嫌いなのはあたりまえ」、「読まないのがふつう」という学生たちが目立って増えてきた、と指摘しています。

今こそ、子どもたちの生きる力を育む読書活動を強力に推進する必要があるようです。

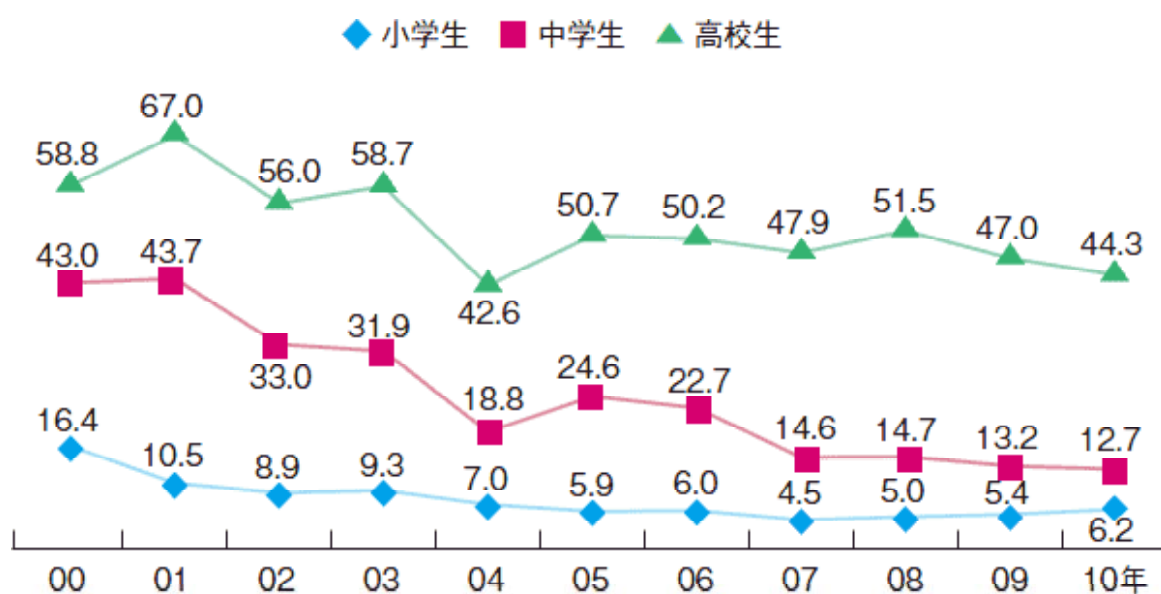
#### 4 子どもの読書活動の現状

子どもの読書状況については、毎日新聞社が（社）全国学校図書館協議会の協力を得て、全国の小中学生を対象に毎年実施している学校読書調査があります。平成22年6月に調査した第56回学校読書調査の結果を概観します。

図表1 5月1か月の間に読んだ本の冊数の平均（冊）



図表2 5月1か月の間に本を読まなかった人の割合（不読率）（％）



図表 3 5月1か月に読んだ本 (冊)

書名別						
	小学生		中学生		高校生	
男子	日本の歴史	67	リアル鬼ごっこ	48	スイッチを押すとき	16
	三国志	27	三国志	37	リアル鬼ごっこ	16
	織田信長	17	ホームレス中学生	29	アバター	11
女子	不思議の国のアリス	25	恋空	46	告白	65
	若おかみは小学生!	18	告白	37	余命1ヶ月の花嫁	21
	ヘレン・ケラー	17	白いジャージ	25	デュラララ!!!	18

カテゴリー別						
	小学生		中学生		高校生	
男子	かいけつゾロリ シリーズ	113	山田悠介作品	156	山田悠介作品	108
	怪談レストラン シリーズ	106	ライトノベル系作品	69	ライトノベル系作品	59
	ハリー・ポッター シリーズ	30	ハリー・ポッター シリーズ	43	村上春樹作品	13
女子	怪談レストラン シリーズ	118	ケータイ小説系作品	197	ケータイ小説系作品	77
	IQ探偵ムー シリーズ	39	山田悠介作品	120	ライトノベル系作品	72
	黒魔女さんシリーズ	34	ライトノベル系作品	57	山田悠介作品	51

図表 1 は校種別の 5 月 1 か月の間に読んだ本の冊数の平均です。小学生が 09 年に著しい低下が認められましたが、10 年調査では増加傾向を示しました。中・高校生は僅かに増加傾向を示しています。

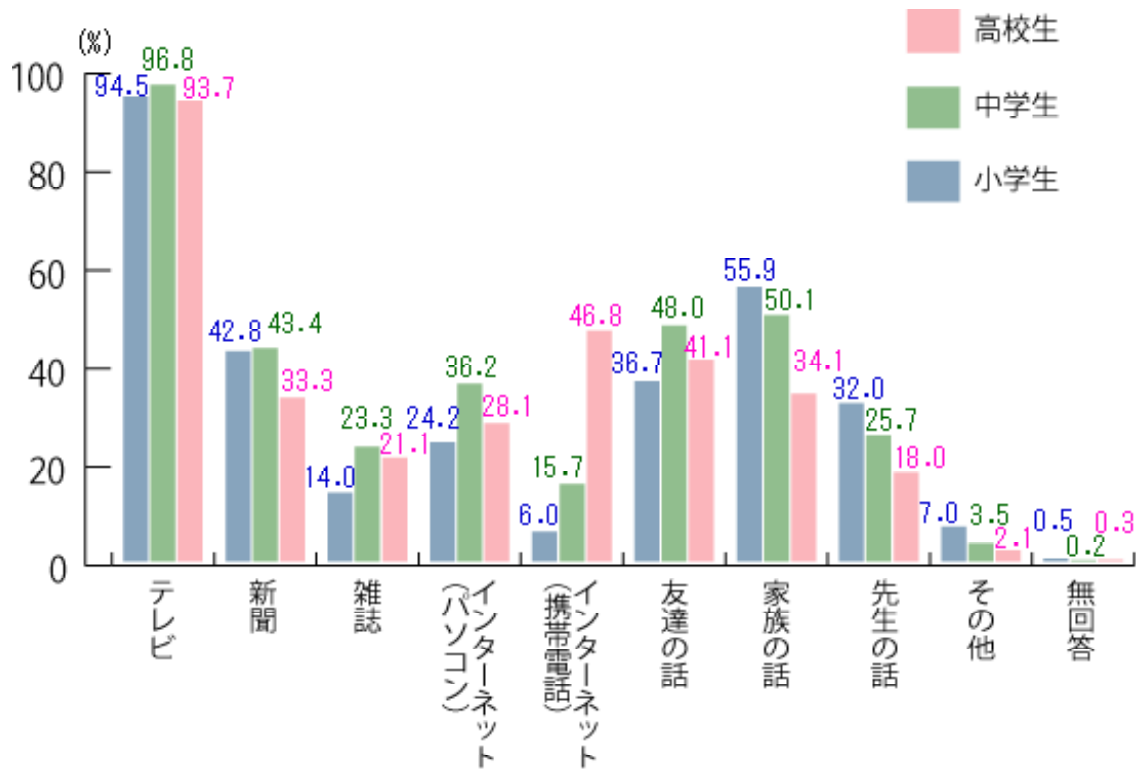
図表 2 は 5 月 1 か月の間に本を読まなかった人の割合（不読率）です。小学生が 07 年から増加傾向を示していますが、中・高校生は減少傾向にあります。

これらの要因として毎日新聞社は、「あさどく」など教育現場における読書推進の努力、国や市町村教育委員会の施策といった重層的かつ継続的な取り組みの産物と捉えている一方、簡単で読むのに時間のかからないライトノベルやケータイ小説原作作品の増加が一因、と見ています。

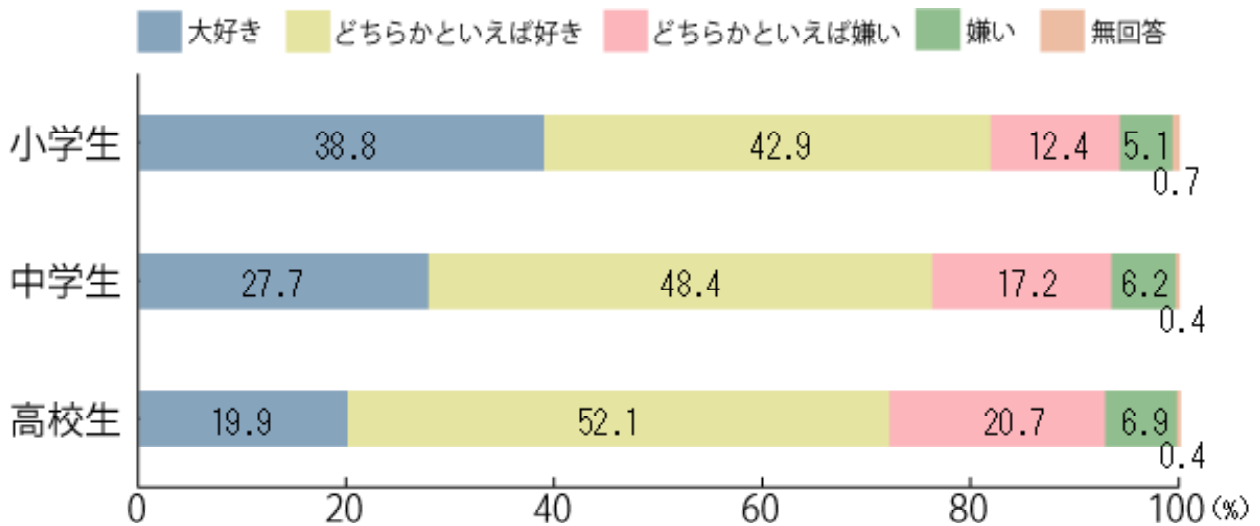
図表 3 は 5 月 1 か月に読んだ本ですが、一定のシリーズものに人気が集まり、きっかけとなる本から次々とシリーズものを読み続ける傾向がここ数年のトレンド、と指摘しています。



図表 4 世の中の情報の入手経路



図表 5 本を読むことに対する意識



図表 4, 図表 5 は昨年と同調査のデータです。図表 4 は直接読書のことではない付帯設問で、子どもたちの情報入手経路に関する調査ですが、校種を問わず「テレビ」が圧倒的に多くなっています。パソコン、携帯電話を合わせると「インターネット」も多く、映像による情報入手が多くなっています。

図表 5 は、本を読むことが好きか、という質問の回答ですが、「大好き」、「どちらかといえば好き」を合わせた回答が、小学生で 8 割、中高生で 7 割に達しています。調査主体は「ゲーム機の進化など、これだけ遊びが多様化した中においても、いまだ 7 割以上の児童・生徒が読書に対して好感を抱いていることを思えば読書離れ、活字離れが少なくても子どもには当てはまらないといえるだろう」と指摘しています。

平成 13 年の子どもの読書活動の推進に関する法律の制定、平成 14 年の子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の策定以来、国を挙げて取り組んできた子ども読書の推進が一定の成果をあげている、と言えるのではないのでしょうか。

## Ⅱ 1次計画の検証

### 1 1次計画の取り組み

1次計画では目的を「生涯を通じて本に親しむことができるようより良い子ども読書環境づくりの整備を推進し、心豊かでたくましく生きる子どもの育成を目指します。」と定め、①読書機会の提供②読書環境の充実③読書活動の理解の促進④関係機関との連携の強化、の4つを基本的方策とし、①乳幼児期の読み聞かせの推進②ボランティアとの連携・協力③小・中学生における読書活動の推進、の3つを重点項目に位置付け具体的事業を行ってきました。

重点項目①乳幼児の読み聞かせの推進については、市立図書館ではボランティアとの協働で定期的におはなし会や出前おはなし会を行い、また、保健福祉部健康課が行う母子健康手帳交付や両親学級、健診など乳幼児と保護者が集まる機会を捉え、市立図書館と協働で読み聞かせやブックリストの配付を行いました。太陽の家、保育所、児童館においても読み聞かせを行いました。

重点項目②ボランティアとの連携・協力については、6つのボランティアサークルが市立図書館、両分室、各保育所、児童館・児童センター、各小学校、留守家庭児童学級で読み聞かせ活動を行いました。

重点項目③小・中学校における読書活動の推進については、学校図書室への段階的司書配置、各学校毎に朝の読書タイム、読み聞かせ会、読書感想文の募集などに取り組みました。

各関係機関が行った取り組みは、図表6のとおりです。

図表6

市立図書館	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①ブックスタート用リストの作成、配布(部)		2,000	500	2,000	2,000
②子ども読書リーフレット「うさちゃんだより」の作成、配布(部)	800	800	800	800	3,200
③子ども用本の展示(月)	4ヶ月	5ヶ月	5ヶ月	5ヶ月	3ヶ月
④おはなし会の開催(人)	2,840	2,940	2,029	※1,439	※1,295
※21年度はインフルエンザの流行、22年度は震災の影響により、移動おはなし会が中止になった学校もあり、参加人数に影響が出た。					
各小学校	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①朝の読書タイム等一斉読書の励行(校)	5	5	5	5	5
②読み聞かせ会の実施(回)	68	83	71	97	83
③図書だよりの発行(校)		2	2	2	
④委員会の活動(校)	3	3	3	3	4

⑤	学級文庫の充実（校）	1	1	1		
⑥	児童書展示会（校）	1	1	1	1	
⑦	担任・PTAによる読み聞かせ会の実施（校）		1	1	1	1
⑧	本の紹介（校）		1	2	1	
⑨	図書室の環境整備（校）		1	1		1
⑩	教科書関連の図書の購入（校）			1		
⑪	希望購入図書調べの実施(校)			1		
	各中学校	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①	朝読書など一斉読書の励行（校）	4	4	4	4	4
②	読書賞の表彰（校）				1	1
③	「読書の花」活動（校）				1	1
④	読書感想文の課題化（校）				1	
⑤	図書だよりの発行（校）	1	1	1		
⑥	長期休業中の図書館開放等（校）		1			
⑦	国語科による図書館オリエンテーション（校）			1		
⑧	学級文庫の貸出（校）		1		2	
⑨	本の紹介（校）				1	1
⑩	委員会活動（校）			1	3	2
⑪	希望購入図書調べの実施(校)					1
	健康課	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①	健診時にブックスタート用リストの配布（人）	685	702	684	645	606
②	健診等の機会を活用した読み聞かせの実施（人）	1,734	1,755	1,817	1,820	1,718
	太陽の家	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①	読み聞かせの実施（冊）		2,082	1,785	1,785	2,723
②	読み聞かせの実施（日）		242	242	242	235
	各保育所	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①	読み聞かせの実施(冊)	18,076	30,055	29,710	19,440	21,383
②	読み聞かせの実施(日)	322	1,769	1,813	1,206	1,366
	児童館児童センター	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
①	読み聞かせの実施（冊）	51	117	58	22	20
②	読み聞かせの実施（日）	61	103	50	38	46
③	年齢にあった絵本の紹介	48	106	44	55	96

## 2 1次計画の成果

1次計画では①児童生徒の1年間の学校図書平均読書冊数②市立図書館の児童生徒への年間貸出数、の2つを成果指標とし、それぞれ以下の通り目標値を設定しました。成果指標の経年の推移、目標の達成度は図表7～10のとおりです。

図表7：児童生徒の1年間の学校図書平均読書冊数（単位：冊）

	目標値	H16	H18	H19	H20	H21	H22
小学生	30	22.2	24.6	22.6	21.2	18.7	22.0
中学生	5	1.8	3.8	3.5	3.6	5.4	4.8

図表8：目標値の算出根拠〈学校図書貸出冊数〉（単位：人、冊）

		H16	H18	H19	H20	H21	H22
小学生	児童数	3,810	3,876	3,801	3,823	3,841	3,752
	貸出数	84,750	95,207	85,839	81,124	71,686	82,417
中学生	生徒数	1,767	1,763	1,749	1,775	1,802	1,823
	貸出数	2,550	6,760	6,045	6,473	9,796	8,757

図表9：市立図書館の児童生徒への年間貸出数（単位：冊）

	目標値	H16	H18	H19	H20	H21	H22
小学生	12	9.4	11.9	13.1	15.7	16.4	18.1
中学生	5	2.4	1.8	2.2	2.0	2.3	2.4

図表10：目標値の算出根拠〈市立図書館貸出冊数〉（単位：人、冊）

		H16	H18	H19	H20	H21	H22
小学生	登録数	3,636	2,896	2,950	3,113	3,145	3,063
	貸出数	34,135	34,471	38,750	48,925	51,497	55,415
中学生	登録数	2,081	2,201	2,186	2,154	2,153	1,818
	貸出数	5,092	3,931	4,833	4,302	4,864	4,337

※登録数、貸出数は市外の小中学生を含む

①児童生徒の1年間の学校図書平均読書冊数の内、小学生は目標値を達成しないばかりか、平成18年度から21年度まで減少傾向にあります。中学生は目標値の達成には至りませんでした。基準年である16年度の数値からは増加が認められました。②市立図書館の児童生徒への年間貸出数は、小学生が平成19年度に目標を達成し、以後も増加傾向を示しています。中学生は近年より減少しており、横這い傾向にあります。

小学生については、学校図書室と市立図書館で違った傾向が浮き彫りになりました。これは両施設のラインナップやレファレンスサービスの相違とともに、移動図書館車が小学校を巡回しており利用頻度が多いことが考えられます。

### 3 1 次計画の課題

読書の効果・効用は「3 読書文化の重要性と子どもの読書活動の意義」で述べたとおりであり、このため、当計画の目的は子どもに読書を習慣付け、子どもの読書量を増やすことに他なりません。1 次計画では学校図書室及び市立図書館の貸出冊数を成果指標にしましたが、市立図書館の小学生以外は目標を達成することができませんでした。

また、前述の第 56 回学校読書調査では小学生のひと月（21 年 5 月）の読書冊数が 10 冊、中学生（同年同月）が 4.2 冊であり、年換算では小学生 120 冊、中学生 50.4 冊という調査結果を踏まえると、貸出冊数との単純比較はできないものの、本市児童生徒の読書量は「少ない」という印象は拭えません。と同時に、全国規模で行っている学校読書調査によるデータと比較が可能な指標や目標値を設定することが必要だと考えられます。

他方、関係機関が行った事業内容を見ると、幅広い活動が認められます。特に市立図書館及びボランティア団体による読み聞かせ、健康課が行う乳幼児健診等を活用した読み聞かせ、保育所が日常的に行っている読み聞かせなどは相当の回数が認められます。未就学児が本や読書に親しむ土台になっているものと考えられます。今後も継続した取り組みが求められます。

これら個別具体の活動について、成果指標、目標値を掲げていないほか、効果の検証もなされておられません。次期計画の課題に位置付けられます。

## Ⅲ 2 次計画の内容

### 1 計画の名称及び計画期間

1 次計画の取り組みを引き続き推進し、関係者、関係機関が今後とも子ども読書活動に取り組むため、「第 2 次多賀城市子ども読書活動推進計画」（以下「2 次計画」といいます。）を策定します。2 次計画は平成 23 年度を初年度とし、平成 27 年度までの 5 年間の計画とします。

## 2 2次計画の対象者と取り組み主体

この計画の対象者は、原則的に0歳児から中学生までの市民とし、また取り組み主体は子どもの保護者や家族、地域社会、社会福祉課、健康課、こども福祉課及び太陽の家、各保育所、児童館・児童センターなどの行政機関、教育委員会及び各学校、市立図書館、などの教育機関、その他市民、関係機関とします。

## 3 計画の体系

### (1)ビジョン

多くの市民が読書の大切さを理解しており、読み聞かせ会などが各所で行われ子どもたちが本や読書に親しむ機会が充実しています。児童生徒は読書の習慣が身につき、自ら本を選び、進んで読書に取り組んでいます。教育機関、行政機関など関係機関ではこれら子ども読書活動をあらゆる面でサポートしており、市立図書館や学校図書室をはじめとした読書環境は充実しています。

### (2)基本理念

一本のすばらしさ、読書の楽しさ及び読書環境の充実による子ども読書の促進

読書が子どもたちの豊かな心を育み、生きる力を養ううえで得難い文化であることに鑑み、より多くの子どもたちに本のすばらしさ、読書の楽しさを普及し、また子どもたちが読書しやすい環境を整備することにより、地域ぐるみで子どもの読書活動を推進します。

### (3)基本的方策

#### ①読書文化の普及啓発

教育委員会、各学校などの取り組み主体が、それぞれの立場であらゆる機会を捉え、本のすばらしさ、読書の楽しさを普及啓発します。また、子どもたちが本に興味を抱くようなイベントを行います。

#### ②読書機会の充実

ライフステージに応じた読書機会を創出します。特に各学校が独自に読書機会を創出します。

#### ③読書環境の充実

いつでもどこでも自主的に読書活動ができるよう環境整備に努めます。市立図書館と学校図書室のネットワークを構築します。特に市立図書館の児童書ライナップを充実します。

#### ④関係機関の連携協力

子どもの保護者や家族、社会福祉課、健康課、子ども福祉課及び太陽の家、各保育所、児童館・児童センターなどの行政機関、教育委員会及び各学校、市立図書館などの教育機関、その他市民、関係機関などの連携協力を促進します。

## 4 目標体系と成果指標

目標 1：小学生の年間読書冊数 60 冊（5 冊／月）

※目標設定参考データ

第 56 回学校読書調査による 5 月ひと月の読書冊数 10.0 冊 = 120.0 冊

1 次計画期間中最大の年間学校図書読書冊数（H18） = 24.6 冊

1 次計画期間中最大の市立図書館年間貸出冊数（H21） = 16.4 冊

※数値の算出方法

読書量を暦年の 1 月に抽出調査。（年間読書量の調査が困難であれば月を特定し月の読書量を調査）

小目標 1－1：学校図書室年間貸し出し冊数 30 冊

小目標 1－2：市立図書館年間貸し出し冊数 20 冊

小目標 1－3：朝の読書タイム実施校数 6 校

小目標 1－4：読書活動推進の独自取組実施校数 6 校

目標 2：中学生の年間読書冊数 24 冊（2 冊／月）

※目標設定参考データ

第 56 回学校読書調査による 5 月ひと月の読書冊数 4.2 冊 = 50.4 冊

1 次計画期間中最大の年間学校図書読書冊数（H21） = 5.4 冊

1 次計画期間中最大の市立図書館年間貸出冊数（H21） = 2.3 冊

※数値の算出方法

暦年の読書量を 1 月に抽出調査。（年間読書量の調査が困難であれば月を特定し月の読書量を調査）

小目標 2－1：学校図書室年間貸し出し冊数 6 冊

小目標 2－2：市立図書館年間貸し出し冊数 2.5 冊

小目標 2－3：朝の読書タイム実施校数 4 校

小目標 2－4：読書活動推進の独自取組実施校数 4 校



### 目標 3：読み聞かせ年間活動回数

- 小目標 3－1：読み聞かせボランティア活動回数
- 小目標 3－2：市立図書館読み聞かせ活動回数
- 小目標 3－3：健康課行事時読み聞かせ活動回数
- 小目標 3－4：保育所・太陽の家読み聞かせ活動回数
- 小目標 3－5：その他の読み聞かせ活動回数

## 5 具体的取り組み

生涯学習課	計画の普及啓発 計画の進行管理
市立図書館	子ども読書の普及啓発 読み聞かせボランティアの育成支援 ブックスタート用ブックリストの作成、配付 子ども読書用リーフレットの作成、配付 展示、イベントの実施 読み聞かせ会の実施 派遣による読み聞かせ 新たな子ども読書文庫の創設 小学校図書室と市立図書館のオンライン化と司書派遣 読むことが困難な子どもたちへのサービスの充実
小学校	一斉読書の励行 読書促進のための独自事業の実施
中学校	一斉読書の励行 読書促進のための独自事業の実施
健康課	ブックスタート用ブックリストの配付 乳幼児健診などの機会を利用した読み聞かせの実施 乳幼児健診会場に絵本を配備

各保育所	各保育所のクラスごとの読み聞かせの実施 各行事の際の読み聞かせの実施 ボランティアサークルによる読み聞かせの実施
太陽の家	各クラスごとの読み聞かせの実施 各行事の際の読み聞かせの実施 ボランティアサークルによる読み聞かせの実施
児童館等	各行事の際の読み聞かせの実施 ボランティアサークルによる読み聞かせの実施

おわりに

1998年9月21日、第26回国際児童図書評議会ニューデリー大会で美智子皇后が「子どもの本を通しての平和—子ども時代の読書の思い出」という基調講演をされました。皇后陛下の本への思い、生きることへの深い洞察は、国内だけではなく、世界中の人々の感動を呼びました。以下、その一部を引用します。

「一略—今振り返って、私にとり、子供時代の読書とは何だったのでしょうか。何よりも、それは私に楽しみを与えてくれました。そして、その後に来る、青年期の読書のための基礎を作ってくれました。それはあるときには私に根っこを与え、ある時には翼をくれました。この根っこと翼は、私が外に、内に、橋をかけ、自分の世界を少しずつ広げて育っていくときに、大きな助けとなってくれました。読書は私に、悲しみや喜びにつき、思いを巡らす機会を与えてくれました。本の中には、さまざまな悲しみが描かれており、私が、自分以外の人々がどれほどに深くものを感じ、どれだけ多く傷ついているかを気づかされたのは、本を読むことによってでした。自分とは比較にならぬ多くの苦しみ、悲しみを経ている子供たちの存在を思いますと、私は、自分の恵まれ、保護されていた子供時代に、なお悲しみはあったと言うことを控えるべきかも知れません。しかしどのような生にも悲しみはあり、一人一人の子供の涙には、それなりの重さがあります。私が、自分の小さな悲しみの中で、本の中に喜びを見いだせたことは恩恵でした。本の中で人生の悲しみを知ることは、自分の人生に幾ばくかの厚みを加え、他者への思いを深めますが、本の中で、過去現在の作家の創作の源となった喜びに触れることは、読む者に生きる喜びを与え、失意の時に生きようとする希望を取り戻させ、再び飛翔する翼をととのえさせます。悲しみの多いこの世を子供が生き続けるためには、悲しみに耐える心が養われると共に、喜びを敏感に感じとる心、又、喜びに向かって伸びようとする心が養われることが大切だと思います。そして最後にもう一つ、本への感謝をこめてつけ加えます。読書は、人生の全てが、決して単純でないことを教えてくれました。私たちは、複雑さに耐えて生きていかなければならないということ。人と人の関係においても。国と国との関係においても。

子供達が、自分の中に、しっかりとした根を持つために

子供達が、喜びと想像の強い翼を持つために

子供達が、痛みを伴う愛を知るために

そして、子供達が人生の複雑さに耐えそれぞれに与えられた人生を受け入れて生き、やがて一人一人、私共全てのふるさとであるこの地球で、平和の道具となっていくために。」

余りにも複雑になりすぎたこの社会を、子ども達は自らの力で生き抜いていかなければなりません。本はその「助け」になる深くて豊かなメディアです。子ども達が本に親しみ、本から多くを学び取り、力強くそして心豊かに育ててほしいものです。そのため保護者、教師、その他多くの関係者がそれぞれの立場で子ども読書の推進に尽力することが求められます。



## 第2次多賀城市子ども読書活動推進計画

～心を育てる読書プラン～

平成23年7月

編集・発行 多賀城市教育委員会生涯学習課

〒985-8531 多賀城市中央2丁目1-1

TEL 022-368-1141 内線 541～544

FAX 022-309-2460

E-mail [gakusy@city.tagajo.miyagi.jp](mailto:gakusy@city.tagajo.miyagi.jp)